

## 伝えることの大切さ

名護特別支援学校 中学部三年

上間 隆輝

今年も、沖縄復帰記念日から慰霊の日にかけて、平和学習をしました。戦争では、たくさんの人が死に、こわいものだといいことはよくわかっていました。学校に行きたくても行けない子がいたり、ごはんもおなかいっぱい食べられない子がいたり、戦争はないほうがいいことは、ぼくも、よくわかっていました。でも、「ひめゆりたい」とよばれた生徒達がいいたことは、しりませんでした。

平和学習では先生が、「ひめゆり」という絵本を読んでもくれました。そして、戦争がこわいという気もちよりも、つらいという気もちになりました。本当にあつたできごとだということを知り、心がいたかったです。特につらかったのは、沖縄戦がはげしくなり、ひめゆりの人達が自分達だけでにげていたところでした。にげている時、一人の友達がぼくだんにうたれて大けがをしました。動けなくなった友達をのこし、どんな気もちで、ひめゆりの人達にげたかと思うと、本当につらくなりました。大切な友達が死んでいくのを助けられなくて、くやしかったことでしょう。戦争なんて、もういやだとおこりながら走ったことでしょう。そして何よりも、死んでいった友達のために、自分が生きてやるんだという強い気もちで、いつしうけんめい、にげたことでしょう。ひめゆりの人達が、助かって本当によかったです。

今、日本はすぐく平和です。この平和をぜつたにたくしてほしくないと思います。もちろん、日本だけではなく、どの国も平和であつてほしいので、北朝鮮のミサイルはやめてほしいです。なぜなら、ぼくは、平和がいちばん好きだからです。平和だと、ご飯もおなかいっぱい食べられるし、家族や友達とも話したり笑ったり、遊んだりすることができます。ぼくの大好きな、この平和がずっといつまでも続いてほしいと思います。

そこで、ぼくができることを考えてみました。ぼくができることは、「ひめ

ゆり」から伝えられたことを、家族や友達に伝えることです。また、しょうらい、ぼくが大人になって、自分の子どもに戦争があつたこと、ひめゆりという子ども達が戦争の中で、生きてきたことを伝えることです。子どもに戦争体験をさせてはいけません。子どもには、はしゃぐ顔とよろこぶ顔がよくにあいませ。ぼくもよろこんでいる時の顔がいちばん、ぼくらしいです。ぼくがぼくらしく生きるために、人々が笑顔でいられるように、自分のすべきことを、せきにんをもってやりとげたいと思います。それが、ひめゆりの人達への恩返しになるから。